# 孤独な愛され女王蜂　５

# 孤独な愛され女王蜂　5

## EntsCat

### https://www.pixiv.net/novel/show.php?id=19464968

R-18, モ腐サイコ100, 霊幻総受け, ヨシ霊, ♡喘ぎ, オメガバース, 濁点喘ぎ, 律霊, もぶおじさん×霊幻

誰得？俺得！なオメガバースパロです。オリジナル設定含みます。ヨシ霊ですがビッチ師匠総受けです。モブおじさん×師匠あります。今回は本番は律霊です。♡喘ぎ、濁点喘ぎあり。倫理がまたもやアレ。お好きな方はお付き合いください。

いつもいいねやブクマ、絵文字やコメントなどありがとうございます！とても励みになっています🌸
マシュマロもありがとうございます〜！https://marshmallow-qa.com/entscat?utm_medium=url_text and utm_source=promotion

# 孤独な愛され女王蜂　5

昨日は酷い目にあった……。
結局気絶するまで犯されて、朝起きたらモブが裸土下座してた。まあそんなことしなくても怒ってないんだけどさぁ、どうしちゃったんだろうな、モブ。今まで俺を強制的にヒートにしたりはしなかったのに。
よっぽどヨシフさんのことが気に掛かってしまったんだろう。確かに俺の好みのアルファだが、あっちにその気はないんだから、気にしなくていいのに。
それよりも。
「お前、事務所でヨシフさんと仲良くできるか？」
「……っ」
即答できないのが答えだわな。
「仕方ない、しばらくシフトズラすようにするわ。気持ちの整理がついたら徐々に慣れていってくれよ」
「……すみません……」
かたや俺の番。かたや運命の番。無理に仲良くさせようとするのはパワハラだろう。
ヨシフさんに話しておかないとなあ。俺の荷物の中に覚えのない鉛筆削りがあったから、盗聴してもう聴いてるかもしれないけど。
「じゃ、俺そろそろ仕事行くから。お前も大学行けよ」
「……はい」
ふわりと口付けられる。
「いってらっしゃい、師匠」
「……いってきます」
ラブホでいってきますも何もないもんだがな……。

※

今日は常連のアルファ客の除霊だ。毎回本物をつけてくるなんて、どんな生活してるんだよ、この人。

「では、除霊いたしますね」
芹沢が俺の後ろから手をかざす。
「お願いします」
その中年男性は、すりすりと俺の手を触りながら言ってくる。ピクっと芹沢とヨシフさんの頬が引き攣った。
「大丈夫ですからね」
俺はその行動を不安のせいとみなした顔をして、手をぎゅっと握ってからそっと外す。
中年男性は明らかに残念そうな顔をしながら、大人しく芹沢の除霊を受けていた。
「終わりました」
「先生、今日も呪術クラッシュをお願いします」
ひくりと思わず俺の頬が引き攣った。
「かしこまりました」
施術室の準備をして、客には下着以外を脱いでもらう。
「よろしくお願いします」
施術台に寝転がった客は、隙あらば俺の身体を手の甲で触ってくる。
「……っ、リラックスして、身体を動かさないでくださいねー」
「はは、すみません、手が勝手に」
さわ、と舌の根も乾かぬうちに、俺の太ももを客が撫でた。
「あのですね……！」
流石に注意しようと口を開いた時に。
「あいてててててっ！」
念の為に開けていた施術室のドアから入って来たヨシフさんが、客の手を捻り上げていた。
「迷惑行為防止条例違反の現行犯だ。逮捕する」
「ヨシフさん！？やめてくれ、お客さんから手を離すんだ！」
「……しかし……」
「やりすぎだ！すみません、ウチの従業員が大変失礼をいたしまして」
俺は平謝りする。
「まったく、なんて失礼な男だ！しっかり教育してくれたまえ

よ！」
「『申し訳ありません』」
俺はフェロモンに乗せて言葉を吐く。
「……次は気をつけたまえ」
「はい、本当に申し訳ありません」
フェロモンに酔ってぼんやりしたまま客は帰って行った。
「はいしゅーごー」
ぱんぱんと俺は手を叩く。
従業員全員（と言っても今は芹沢とエクボとヨシフさんのみだが）が俺の周りに集まってきた。
「芹沢、ここで働く時の約束は？」
「……『霊幻さんへの客からのセクハラは、霊幻さんからヘルプがあるまで手を出さないこと』」
「そうだな。よく言えた。ヨシフさんに伝えるのを忘れていたのは俺のミスだ。だけど今後はヨシフさんもさっきの約束を守ってくれ」
「……しかし、さっきの客は許容範囲を超えています。警察に引き渡した方がいいと思います」
はぁ、と俺はため息をつく。
「これまでアルファしかいない職場で働いてきたヨシフさんには分からないとは思うが、働いているオメガへのセクハラってのはあれぐらいなら軽い方だ。あんなのでいちいち通報してたら商売上がったりなんだよ。オメガと働く以上、アルファはオメガへのセクハラに耐えることも必要になってくるんだ」
だが、と俺は言葉を切る。
「ヨシフさんの言うことは間違っちゃいない。それは大事にして欲しい。……ここは俺の事務所だ。俺の方針には従ってもらう。ただそれだけだ。はい、説教おしまい。解散」
やれやれ。毎日何かしら起こるもんだな……。

※

今日は芹沢の日だが、宿が無いことを伝えて延期にしてもらった。

別れたっつったらやたら嬉しそうにしてたな。悪いけどすぐ次を作るけどな。
ナンパの聖地でブラブラする。案外金のある若いアルファがナンパしてたりするから狙い目ではあるのだ。若い子の方が束縛が緩くて、別れやすいことが多い。結婚適齢期のヤツはダメだ。俺は元彼から学んだ。
「こんなところで何してるんですか、アンタ」
げっ、律くん。
うわー、ナンパ場で知り合いには会いたくなかったな……。
「り、律くんこそ」
「僕は家庭教師先からの帰り道ですけど……こんな所でぶらぶらしてたら、変なアルファに声かけられますよ」
うーん、相変わらず不機嫌がデフォだなぁ、律くん。
「いや、俺、今、宿無しでさぁ。ナンパ待ちなのよ」
「……何してるんですか、情け無い」
うぐぅっ、キッツいね、律くん！
「仕方ないな、僕がナンパしてあげますよ」
「……へ？」
「僕、１人暮らしですし、稼ぎもあるんで、あなた１人ぐらい同居しても大丈夫ですよ」
た……
助かるー！！
「い、いいの？」
「ええ」
律くんなら俺に興味ないだろうし、最高の同居人なのでは！？
「さあ、行きますよ」
さっと律くんは手を繋いでくる。
「……？あ、ああ」
俺は先に進む律くんの耳が真っ赤なのに、首を傾げた。

※

「り、律くん、ここ本当に住んでる？」

まるでモデルハウスだ。
チリ一つ落ちていない。
嫌な予感がする。
「住んでますよ。ああ、玄関に入る前に靴の裏の土をブラシで落としてくださいね」
うげっ。
「髪の毛を落としたら見つけ次第拾うかコロコロしてください。取れなかったら掃除機かけて」
うぐぅっ。
「部屋の中を歩く時は絶対靴下を履いてくださいね。裸足で歩かないこと」
ぐわぁっ。
「シャワー先にどうぞ。上がったらティッシュで排水口を掃除してくださいね」
ぎゃあああああっ。
「は、はは……ありがとう……」
うん。
明日には出て行こう。

潔癖症と暮らすのはムリ。

俺はシャワーを浴びて、スウェットに着替えて律くんがひいてくれた客用布団に潜り込む。
最近夜更かしが続いていたから、すぐにうとうとしてくる。
が。
「霊幻さん……」
律くんにのしかかられて、ギョっとした。
「り、律くん？どうしたんだ？」
「宿代、貰ってもいいんですよね？」
「……いいけど、彼女とかいいの？バレたら揉めるぜ？」
俺は枕元のカバンに手を伸ばして、ヒート誘発剤とコンドームを引っ張り出す。
「彼女なんていませんよ。……今日から霊幻さんが彼女になってく

れるんでしょう？」
「いやそれはちょっと……あっ、」
律くんが俺の掛け布団を奪って、スウェットの下に手を差し込んでくる。
「あっ、あっ、ちょっと、待って、」
捲り上げられたスウェットから覗いた乳首を律くんがすりすりと撫ぜてくる。
「シラフじゃヤだって、こらっ、もうっ」
俺はローテーブルに置いていたお茶のペットボトルで誘発剤を飲む。
「クスリ効いてくるまで、待っ……っぁあ」
ぺろ、と舌の感触に乳首を責めたてられて、俺はグイグイと律くんの頭を押して退けようとする。
「や、やめて……あ、あ！」
律くんの熱い息と共に、兜合わせするようにごりっと性器を擦り付けられて、身体が跳ねた。
「待って、お願い……あ、あっ♡」
やっと♡ひーと、きたぁっ♡
「ちっ」
なんでっ♡舌打ちするのぉっ♡
「こんなの、酔ってる人を手篭めにするのと変わらない」
ならっ♡やめればぁ……っ？♡
「……うるさいな」
律くんがっ♡俺のズボンとボクサーパンツを取ってっ♡
パジャマから、ボロンってちんこ出したぁっ♡
「ゴムっ♡ゴムしてぇっ♡赤ちゃん出来ちゃうっ♡♡♡」
「……」
律くんっ♡黙ってゴムしてくれてるぅっ♡いい子っ♡
「ん゛お゛っ！？♡」
ぶちゅって♡一気にきたあっ♡
「もっとぉ、優しくぅ……っあ！？♡」
ごんっ♡ごんって♡奥ぅ、奥キツいぃっ♡
「──奥、ぶち抜いてあげますよ」

「やっ♡やめっ♡だめっ、そこダメなのぉっ♡」
ごんっ♡ごんっ♡──ぶちゅっ
「やらあああああああぁあっ♡♡♡」
おもらししたみたいにっ♡せーえき出たあ……っ♡♡♡
「あ゛っ♡あ゛っ♡あ゛あ゛あ゛っ♡」
ぬぼっ♡ぬぼっ♡って♡けっちょう気持ちいい♡♡♡
「良さそうですね。こっちも触ってあげますね」
！
ちんちんらめっ♡いまちんちんだめなのおっ♡
「あああぁあぁあアッ♡♡♡♡」
ぷしゃあって♡潮でちゃった……♡
「らめって……♡いったぁ……♡」
「あはは、何言ってるんだか全然分からないですよ。そんなに犯されるのは気持ちいいですか？」
……
「アルファチンポ気持ちいいっ♡チンポさいこおっ♡♡♡」
「はは、そうです、かっ！」
ピストンっ♡おっきいっ♡
「あ゛ぁ゛っ！？♡♡♡」
びゅびゅって♡せーえき出たあっ♡
ぞくぞく気持ちいいれすうっ♡♡♡
「……っく、僕もイきます」
んあっ♡いっぱい出てるぅっ♡
「も、宿代には充分、だろぉっ？♡」
あっ♡新しいゴム取られたぁっ♡
「こんな状態で辛いのはあなたじゃないんですか？」
また太くて長いのっ♡入ってきたあ……っ♡♡♡
「あぁあああぁっ♡♡♡」
もう、寝たいん、だってば……っぁん♡♡♡

「霊幻さん、本当に僕がたまたま通りかかったんだと思ってるんですか？」

続